



北区の部屋
今月の展示

「北区にかかる旧荒川
(新河岸川・隅田川)の橋」



■展示期間 1月24日(金)～2月26日(水)

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

北区の歴史を語る上で欠かすことのできない旧荒川。現在は河川改修などによって新河岸川や隅田川となっています。北区域に限ってみれば11の橋が架かっていますが、橋が架けられた時代やその経緯は様々です。今回の展示では、こうした旧荒川に架けられている橋について紹介します。

講演会・講座 開催のお知らせ

歴史講演会

「北区域の紡績業と渋沢栄一
～下野紡績株式会社をめぐる～」

明治41年(1908)、現在の北区堀船地区に下野紡績株式会社王子分工場が設立されました。下野紡績(株)をめぐる人々や諸会社と渋沢栄一との関わりに注目しながら、北区域の紡績業と栄一についてお話しします。

【企画・運営】北区図書館活動区民の会

■日時 2月22日(土)午後2時～4時

■講師 公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館館長 桑原 功一氏

■申込締切日 2月7日(金)

公開歴史講座「北区の旗本」

北区域の村々に所領(知行所)を持っていた旗本を取り上げ、地域の村々とのようなかかわりを持っていたのか、専門家がわかりやすくお話しします。

■日時 3月8日(土)午後2時～4時

■講師 地域資料専門員 保垣 孝幸

■申込締切日 2月21日(金)

★はがき記入例★

【返信面表面】

申し込む方の
郵便番号
住所
氏名

【往信面裏面】

講座名
郵便番号・住所
氏名(ふりがな)年齢
電話番号(FAX番号)
その他必要事項

＝ 以下、共通 ＝

★会場 中央図書館3階ホール

★定員 対象 40名(抽選)

★対象 中学生以上の区内在住・在勤・在学の方

★申込方法 往復はがき(記入例参照)で締切日(必着)まで。

※視覚障害のある方は電話申し込み可※聴覚障害のある方はファクス申し込み可※障害のある方で付添いを必要としている方は付添人1名まで可(申し込みの際にその旨ご記入ください)。※会場にはヒアリンググループ補聴援助システムが設置されています。

★申込・問合せ先 〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館図書係
TEL5993-1125 FAX5993-1044

耳マーク



小学生向けワークショップ

「親子で探検!中央図書館ナイトツアー」
を開催しました!

1月12日(日)「親子で探検!中央図書館ナイトツアー」(企画・運営:図書館活動区民の会)を開催しました。あかりの消えた図書館の中で色々なミッションにチャレンジしたりしながら、赤レンガ図書館のひみつを解き明かしてい

きました。参加した方からは「図書館が大好きなので、普段知ることのできない裏側をのぞくことができ、大変ありがたかったです」「夜というシチュエーションの特別感でテンションも上がり宝探し要素もあり、すごく楽しく学べました」などのご感想をいただきました。





北区の部屋だより

2025年3月 第187号



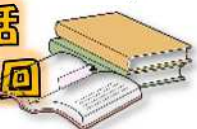
刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和7年3月発行

北 区
こぼれ話
第187回

ドキドキしながらめくった検索カード

～楽しかったアナログな調べもの～



地域の調査や歴史の研究について効率は、以前と比べて格段に良くなりました。インターネットや、図書館の情報検索端末の普及によって、目標としている情報がどの本に載っているのか見つけやすくなったのです。逆に、情報にたどり着けない場合、簡単に見切りをつけることも多くなったように思います。

かつては、書名や著者名、分類などの検索カードを用いて時間をかけて本を探すことが一般的でした。その図書館に目的の本がなかったら、もっと大きな図書館に行くことになるため、自分の運命を占うようにドキドキしながら検索カードを一枚一枚めくったものです。カードをめくっていると、読みたい本だけでなく、似たような書名の本も見つけて「こんな本もあるのか」と思いがけない発見をすることもありました。また朝から夕方まで一つの情報を探し求めて、書名・著者名・分類の各カードや、似たような書名の多くの本に目を通

し、結局のところ徒労に終わることも珍しくありませんでした。そのため、やっと目標とする一文にたどりついた時の達成感はひとしおでした。調べものそのものが、苦労であると同時に「宝探し」のような楽しい時間でもありました。しかし、今ではネット上で電子書籍を購入したり、古文書や公文書の閲覧までできるようになりました。資料探しは個人の努力や力量ではなく、情報システムの問題へと変化していきました。

世の中が便利になって、様々な楽しさが失われました。たとえば、スマートフォンのカメラが発達する中で、フィルムカメラが姿を消しつつあります。フィルムカメラの写りは現像があがってくるまで分からず、ピントがあっていなかったり、逆光で顔が暗かったり、一枚一枚の出来上がりに一喜一憂していました。それだけに自分の予想を上回る写りだったときは、とても嬉しかったものです。今のように撮影結果がすぐに分かり、キレイに写って当たり前というのではドキドキ感がありません。思えば、私たちの社会は苦労や不確実さを排除する方向へ進んできました。その一方で不便さの中にあつた楽しみまで失われつつあります。

たまにはデジタル機器での検索を止めて、図書館という情報の海を手あたり次第に漂ってみませんか。検索カードはありませんが、肉眼と記憶にたよるだけのアナログな本探しはとても贅沢な時間に思えるのですが、いかがでしょうか。

【地域資料専門員：黒川 徳男】



【ちょっと季節外れですが・・・珍しく雪化粧の赤レンガ図書館】

北区の部屋

今月の展示

- 展示期間 2月28日(金)～3月27日(木)
■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

戦前の赤羽や十条には、様々な日本軍の施設がありました。終戦後、それらは連合軍に接收されTOD(Tokyo Ordnance Depot 東京兵器補給廠)などに使用されました。昨年11～12月にかけて展示した、米国国立公文書館に保存されていたTODや周辺の写真展示の第2弾です！

- ① 【TOD(東京兵器補給廠)のM4 シャーマン戦車】赤羽 1955年9月6日
② 【十条台のTOD第4地区(現十条駐屯)】1955年8月4日



①

②



◎資料紹介◎



80年前の昭和20年(1945年)3月10日は東京大空襲があった日です。北区には軍事施設が沢山あった関係で「北区の部屋」では戦争に関する資料も集めています。出版社から発行されている資料はもちろん、区民の方がまとめた資料、地域資料専門員が監修に携わった北区総務課で作成した北区平和マップなど。貴重で興味深い資料があります。北区の歴史を学びながら、現在と未来の平和に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

《書誌番号》

『赤羽・王子に残る戦争の痕跡』:B13106020 『東京の戦争と平和を歩く』:B10737568
『北区平和マップ』中央図書館「北区の部屋」等で無料配布中。なくなり次第終了。

《探しています》

北区に関する資料をお譲りください！

「北区の部屋」では、北区に関わる古い写真、地図、文書などを集めています。

江戸時代や明治・大正時代だけでなく、昭和や平成のものも北区の歴史を未来に伝える貴重な資料になります。

ご自宅に眠っているこれらの資料を捨ててしまう前に「北区の部屋」にご一報下さい。

お待ちしております♪



【四季折々、様々な顔をみせる赤レンガ図書館:撮影 黒川徳男】



北区の部屋だより

2025 年 4 月 第 188 号



刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和 7 年 4 月発行



同じように見えても ～「工場のまち」北区の現在～



雑誌や TV 番組の影響でしょうか、最近「北区の部屋」には飲み屋街として知られる赤羽について、「何で朝から飲める店が多いの?」といった問い合わせが頻繁に寄せられます。これには、かつて「工場のまち」として栄えた北区の歴史が深く関係してくると思われるのですが、そもそも、北区で工業が盛んだったことをどのぐらいの方がご存知でしょうか。

戦前から隅田川や新河岸川沿岸には大規模な工場が建ち並んでいましたが、戦後になっても工場は増え続け、昭和 30 年（1955）に 1,356 だった工場数は、高度経済成長期にあたる昭和 43 年（1968）には 3,356 にも達しています（『新修北区史』東京都北区、1971 年、1067 頁）。その後は、地価の高騰や工業用水確保の問題、住宅地が隣接することで生じる公害問題など様々な理由で工場の移転が進み減少していきませんが、それでも平成 5 年（1993）の段階で「隅田川や新河岸川沿いを中心に出版・印刷・同関連産業、化学工業、一般機械器具製造業などを中心に多くの工場が活発な操業活動が続け」（『区政概要 93』、産業・経済「あらまし」）、1,793 の工場が区内にありました。



写真：1960 年代隅田川沿い神谷橋付近の工場群

そして現在はというと工場数は 215 にまで減っています。かつて北区の産業の大きな部分を占め、現在でも産業別では最も多い工場数の出版・印刷・同関連工場でも 386 から 63 に減っており、金属製品製造工場は 216 から 23、電気機械器具製造工場は 109 から 12 と 10 分の 1 程度にまで減少しています（現在の数は令和 3 年（2021）段階のもの、令和 6 年〈2024〉9 月発行『北区行政資料集』）。「昔、北区は工場のまちだったんだよ」といってもピンとこない人が増えているのも当然なのかも知れません。これはいい、悪いといった話ではなく、北区という地域が担ってきた社会的な役割が変わってきたことを示しているのです。

さて、話を冒頭に戻しましょう。何故、赤羽に朝から飲める店が多いのか。かつては工場で働く労働者、取り分け夜勤明けに一杯やる客たちに応えるため朝から営業している店が多かったといえます。しかし、現在の北区は工場数の現状が示すように「工場のまち」ではなくなってきています。すなわち、赤羽の飲み屋さんたちも全く別の理由で朝から営業しているということになるのです。ここでその理由を探ることはしませんが、現象としては同じでも、その理由や意味が全く異なっていることもあるのです。

【地域資料専門員 保垣孝幸】

北区の部屋
今月の展示

「古写真の場所を求めて～あなたも名探偵～」

- 展示期間 3月29日(土)～4月23日(水)
■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

古い写真をもとに、その場所を探しながら歩いてみるのはいかがでしょうか。
画像に移り込んだものを手掛かりにして場所を特定して歩くのも探偵気分で
面白いと思いますよ。



古文書入門講座「古文書って面白い！」

開催のお知らせ

中止のお知らせ

北区ニュース 3月20日号でお知らせいたしましたが「古文書入門講座『古文書って面白い!』」は、諸事情により「中止」となりました。
振替開催は未定です。申し訳ございません。

北区の旧家に残
ついて学習しま
*日時 令和7
14時
*場所 中央区
*講師 保垣孝
*対象 北区在
*定員 20名
*申込 往復は
記入の

歴史に

がき記入例>

講座名

〒住所

氏名(ふりがな)

年齢、電話番号

返信面 表面

返信面 裏面

講演会・講座、開催しました！

① 歴史講演会 2月22日(土)

「北区域の紡績業と渋沢栄一～下野紡績株式会社をめぐって～」

渋沢史料館館長 桑原功一氏をお招きし、歴史講演会を行いました。

製紙業のイメージが強い北区ですが、紡績業にも関わっていたことにクローズアップしたお話をしていただきました。

「今まで知らなかった北区での紡績業について知る事ができてよかった」

「とても話が聞きやすくて、あっという間に時間がきていました」等の感想をいただきました。
桑原 功一氏



② 公開歴史講座 3月8日(土)

「北区の旗本」

当館の地域資料専門員 保垣孝幸講師による公開歴史講座を行いました。

北区にどのくらいの旗本がおり、どんな暮らしぶりであったのか等、古文書を読み解きながら、講座が進んでいきました。こちらでも大変好評で、「時代小説が好きなのでとても大変興味深かったです」「旗本と土地の人々との様子がわかってよかった」等の感想をいただきました。



保垣地域資料専門員



北区の部屋だより

2025年5月 第189号



刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL03-5993-1125 令和7年5月発行



赤羽の戦車試運転場に敷かれた キャタピラと日本刀



赤羽自然観察公園の土地には、戦前、^{りくぐんへいきほきゆうしやう}陸軍兵器補給廠がありました。兵器の調達・保管・修理・供給などを実施する^{へいたん}兵站（後方支援）の拠点でした。戦後、アメリカ軍は、ここを TOD(Tokyo Ordnance Depot=東京兵器補給廠)第2地区として使用しました。第2地区には、戦車の修理工場や、燃料や塗料の地下格納庫であるケミカルデポがあり、戦車を貨車に積むためのランプ（貨物用プラットフォーム）がありました。そして、現在、自然観察公園になっている楕円形の広く平坦な土地は、戦車の試運転場として用いられたのでした。ただし、この土地には問題がありました。それは湧き水です。現在でも赤羽自然観察公園の湧き水は「東京の名湧水57選」の一つとなっています。つまり試運転場にもかかわらず、土地がぬかるんでいたのです。この試運転場については、米軍が撮影した写真が残されています。昭和30年(1955)の撮影で、アメリカの国立公文書館が保存していました。

これらの写真を板橋区教育委員会文化財係が調査・複写し、その画像データを「北区の部屋」にご提供



〔写真〕赤羽の戦車試運転場
米国立公文書館所蔵 板橋区教育委員会調査

いただきました。この試運転場の写真では、たくさんのキャタピラが地面に敷き詰められていることが確認できます。そしてトラックが走行しています。軟弱な土地であっても、キャタピラを敷くことにより、トラックが走行できるように改善されたのでした。

この土地に敷かれたのは、キャタピラだけではありませんでした。赤羽 RTO(Railway Transportation Office=米軍輸送事務所)に派遣されていた国鉄職員だった方は次のように回想しています。「この土地の^{くぼ}凹地に戦利品となった日本の戦車、装甲車などを埋め立て、さらに占領軍命令で^{ほうたいこう}豊太閤なみに全国の庶民から刀狩りをして集めた刀剣や猟銃も火焰放射器で焼却して埋め、戦

車の試走場としていた」(松本守博『米軍輸送と朝鮮戦争』)。占領軍は、日本陸海軍の武装解除をただけではなく、民間にあった日本刀などの武器も接收しました。それらの一部は焼却され、試走場に埋められたのです。刀身は燃えなくても、^{さや}鞘や^{つか}柄は燃えたのでしょう。米兵が大量の日本刀を一本ずつ選別したとは考えにくく、おそらく十把ひとからげで処分していったものと思われます。これら赤羽の TOD に集められた日本刀は、赤羽刀と呼ばれています。残された赤羽刀は、その後、東京国立博物館に保管され、さらに歴史的価値が高いものについては、全国の博物館に無償譲渡されていきました。

【地域資料アドバイザー 黒川 徳男】

北区の部屋

今月の展示



「ヘリコプターから見た北区」

■展示期間 4月25日(金)～5月28日(水)

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー



令和6年(2024)12月7日、自衛隊十条駐屯地にてヘリコプター体験搭乗が催されました。十条駐屯地上空ではドローンの飛行が禁止されているため、その周辺の街並みを空から見る貴重な機会となりました。ヘリコプターは、十条から北とぴあ、田端操車場、スカイツリーや新宿副都心など東京23区の主要な地点を周回し、十条に帰ってきました。天気も良好で、冬の空気は澄み渡り、空からの撮影には絶好の機会でした。今回の展示では、この体験搭乗で撮影した写真を展示いたします。



中央図書館刊行物・新刊本のご案内 令和7年4月刊行

「北区の歴史ははじめの一步 赤羽西地区編 改訂版」

執筆 黒川 徳男・保垣 孝幸/編集・発行 北区立中央図書館



「北区の歴史ははじめの一步」は私たちの住む北区をもっとよく知ってもらうために、北区を7地区に分けて作成した地域学習の入門書です。それぞれの地区の特徴をわかりやすい解説と目で見て理解しやすい多くの図版で紹介しています。毎年学校を通して、区立小学校3年生児童全員に該当する地区編をお配りしています。

また、区内全図書館で閲覧・貸出ができ、下記場所で販売もしていますので、ぜひご覧ください。

販売場所：中央・滝野川・赤羽図書館、飛鳥山博物館、区政資料室(区役所第一庁舎1階)及び、区内一部書店 *詳しくはお問合せください。

書誌番号：B13463520

販売価格：400円



2025 大河ドラマ 「べらぼう」の世界の本



2025 大河ドラマ「べらぼう」は蔦屋重三郎のお話です。時代は18世紀半ばの江戸、天下泰平の世とされていたところのお話。吉原大門前に書店を開き、書籍の編集・出版業を手掛けたのが蔦屋重三郎その人でした。

「喜多川歌麿」や「葛飾北斎」、「東洲斎写楽」などの浮世絵師の名作も世に送りました。

地域資料の本の中にも、浮世絵や今の時代のかつて吉原があった場所に関する本が置いてあります。

華やかだったころの江戸時代に思いをはせてみてはいかがでしょうか？

『浮世絵と古地図でめぐる江戸名所散歩』 大石 学/著 JTBパブリッシング

書誌番号：B10999376

『図説浮世絵に見る江戸吉原』

佐藤 要人/【ほか】著 河出書房新社

書誌番号：B10608150

『見てきたようによくわかる蔦屋重三郎と江戸の風俗』

日本史深堀り講座/著 青春出版社

書誌番号：B13441661

『名所物語 浮世絵にみる北区の江戸時代』 北区飛鳥山博物館/著 北区教育委員会

書誌番号：B13123998



北区の部屋だより

2025年6月 第190号



刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL03-5993-1125 令和7年6月発行



17kg 近い荷物をかついで ～千両箱の話その2～



「北区の部屋」では、江戸時代に滝野川村^{こうぎょう}で絞油業を営んでいた戸部家^{でんそん}に伝存した千両箱を保存しています。所蔵の経緯については、すでに第46回の「こぼれ話」で紹介しているのでそちらを参照していただければと思いますが、元治元年^{げんじがねん}（1864）11月に当時の当主戸部弥惣治^{やそうじ}のもとで製作されたことが知られる正真正銘の江戸時代の千両箱です。

この千両箱、写真のように箱本体は木製ですが四辺は金属で補強され、持ち手部分も金属製になっています。箱は鍵がかけられるようになっており、そこも金属製です。大切な金銀を入れておく訳ですから当然といえば当然なのですが、金庫のようにとても重厚に作られていることが確認できます。そのため、この箱はそれなりの重量があり、実際に測ってみると3.5kgもありました。

さて、千両箱ですからここに小判で金千両入っていたと仮定しましょう。一口に江戸時代の小判といっても時代によって大きさや重さが異なるのですが、最も流通量の多かった元文元年^{げんぶんがねん}（1736）に改鑄された元文小判^{ぶんせい}や、その後文政2年（1819）に鑄造された文政小判^{ぶんせう}だと3.5匁、凡そ13.125gで、千両集まれば13kg以上になります（ちなみに天保小判^{てんぽう}だと3匁なので凡そ11kgちょっとです）。これに箱自体の

重さが加算されるので千両入った千両箱だと16.65kgぐらいになっていたことがわかります。実感するとしたら5kgの米を3袋にさらに2kgの米袋を足したぐらいといったところでしょうか。

よく時代劇などでは千両箱を担いで屋根の上を走り逃げる盗賊などが描かれます。しかし、実際に17kg近い荷物を担いで走り回るといのは、そう簡単なことではなかったと思います。追っ手から逃げると猶更^{さら}でしょう。時代劇がこうした事実^{じじつ}を捨象^{しゃしょう}しフィクションとして描いているのか、それとも、彼ら盗賊たちが17kgを担いで走り回れる屈強のアスリートという前提で描かれているのか定かではありません。

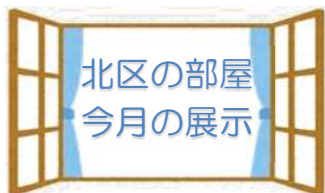
友だちと鬼ごっこをして17kgの荷物を肩に担いだままでも逃げ切れると自信のある方、江戸時代だったら稀代の太極拳になれたかも知れません。ただ、千両盗むと死罪確定の大犯罪ですので、その点はお忘れなく。



＜千両箱の大きさ＞
縦 44cm×横 16cm
高さ 15cm

戸部家に伝存した千両箱

【地域資料専門員 保垣 孝幸】



「王子七滝」 ～王子周辺の滝～

■展示期間 5月23日(金)～6月25日(水)

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

明治43年(1910)に刊行された『東京近郊名所図会』は、王子周辺の滝について「王子の七滝」として紹介しました。

今月の展示では、この「王子七滝」を中心に、江戸時代以来多くの行楽客を集めていた王子周辺の滝について紹介する展示です。

ぜひ、お楽しみください。



「名所江戸百景 王子不動之滝」

国立国会図書館所蔵

新刊かみしばいのご案内

「馬に乗った大蛇」(制作：NPO法人アドリブ)

東京北区のむかしばなしシリーズ(12場面)

～昔むかし、赤羽と稲付のあいだの谷間に、森がありました。

森の中には、「亀ヶ池」という大きな池があって、古くから

雄と雌、二匹の大蛇が棲みついていた～

東京都北区に伝わる、昔話「馬に乗った大蛇」が紙芝居になりました。北区に伝わる昔話や伝説を題材にした、東京北区のむかしばなしシリーズの1冊です。

水の神様と蛇のかかわりや赤羽の亀ヶ池についての解説書付きです。

区内各図書館で貸出できるほか、中央図書館と区内一部書店で販売しています。(2,000円/税込)

また、「王子のきつね」「豊島のだいだらぼっち」も同様に販売しております。



書誌番号(B13491480)

中央図書館「北区の部屋」では、 北区の歴史に関わる資料を探しています！！



みなさんのお宅に、北区に関わる古い写真や地図・文書などは眠っていませんか？中央図書館「北区の部屋」では、このような資料を地域資料として収集しています。江戸・明治・大正期だけでなく、昭和・平成期の資料も地域を知るための大変貴重な資料となりますので、お心あたりのある方はぜひご一報ください。



第189号の紙面にて「北区の歴史はじめての一步 赤羽西地区編 改訂版」の販売価格を500円と掲載しておりましたが、正しくは400円です。訂正してお詫び申し上げます。